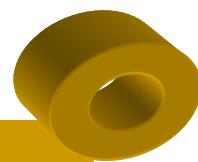


たかがガムテープ、されどガムテープ

1 工程 @ 1 円 ~ 知的障害者の労働現場 003

千葉 晃央



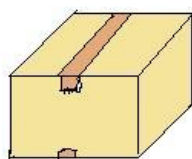
■ガムテープに左右される作業の難しさ

ガムテープなどのテープ類は、下請け作業をするときには、つきものだ。お菓子の仕事、建築資材の仕事、Tシャツの仕事など、どんな仕事にもテープを張る工程は含まれている。そのテープには様々な種類がある。幅、厚み、材質、値段…。下請け作業をする際には、その作業をするときの副資材として、どちらが準備をするかに関して福祉施設と業者の間で話し合われる。基本的には副資材も一式業者持ちで、作業をさせていただくことが多いが、時には福祉施設持ちという場合もある。なので、いかにコストを抑え、先方業者が満足するテープを使うかを知的障害者の労働現場の福祉職は検討をすることになる。

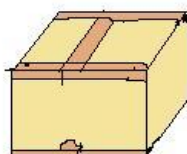
これまで多くの種類のテープを使ってき

た。一番多いのは、よくある茶色の紙製のものだが、テープの幅が先方から指定され、細いものを使う場合もある。時には布テープも用いる。ガムテープは、段ボールを組み立てた時、上下のふたと底に当たる面を閉める際に使う。テープが細いとコントロールが難しく、まっすぐに貼りにくい。まっすぐにならないとかなり目立ってしまう。ガムテープを貼る工程を、知的な障害を持つ利用者がすることも多いが、細いとできる人も限られてしまう。テープも安いとテープの厚みが薄くなる。貼ろうとしてテープの端をめくると、ペラペラ故に、モノに貼る前に伸ばしたテープが引っ付いてしまうこともある。張ったときにシワができやすいのも特徴的だ。そして、少しの切れ目で勝手にどんどん裂けてしまうようなテープもある。このようにテープの幅や厚みか

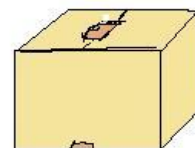
一本貼り



H貼り



一点貼り





ガムテープをあらかじめ、切って、体にゆるく貼って準備しておく。

頭は、髪の毛が入ったら、よくないので、バンダナ等かぶっていることが多い。

ら、その工程を利用者がするのか？職員がするのか？が決まってくることも多い。

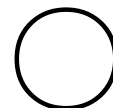
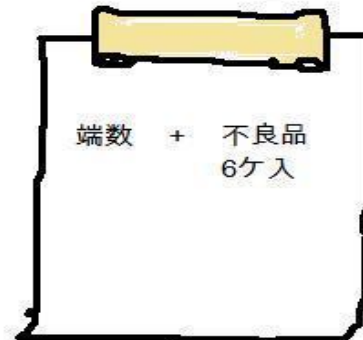
一番良く使うのが段ボール箱を組み立てる時だ。テープの貼り方にもいろいろとある。よくあるのが「一本貼り」と「H貼り」だ。段ボールのふたと底の面を止めるところに一本、これが「一本貼り」。そして、その一本に直角になるよう両端の2か所に止める（上から見ると「H」の字になるようになる）ふたと側面の段ボールのあわせ目に張るのが「H貼り」。（シップのコマースシャルの「介の字貼り」と同じ、ネーミングの仕方ですね。）当然、「H貼り」になると一箱あたりに使うガムテープの量も多い。よって、ガムテープ代にも注意となる。「H

貼り」になるかどうかは、箱の中身が重いか軽いかで決まる。重い時は「H貼り」に一本加えた強化版もある。（「H貼り」の中央に一本増やして「王の字貼り」とはいわないが、どんなものかもう想像できますね？）お菓子や箱を段ボール箱に入れているときは「一本貼り」が多い。また、「すぐにはがす」と決まっているところに貼る時もある。そんな、ただふたを止めるだけの時は「一点貼り」といってふたの真ん中を止めるだけの時もある。納品後すぐに開けたり、半端をメモで仮に箱に貼ったりとかの場合である。その時には、先方への配慮がこちらに求められる。業者の方がガムテープをはがしやすいように、めくりやすく

普通に貼るとはがしにくい！
はがし始めのところめくれない！



内側に折り込んでおくと、
はがしやすい！！



端を折り返しておく。施設と取引きをする会社への顧客満足度といわれるようなところで、そういう配慮をしているかどうか相手への印象が大きく違って来る。

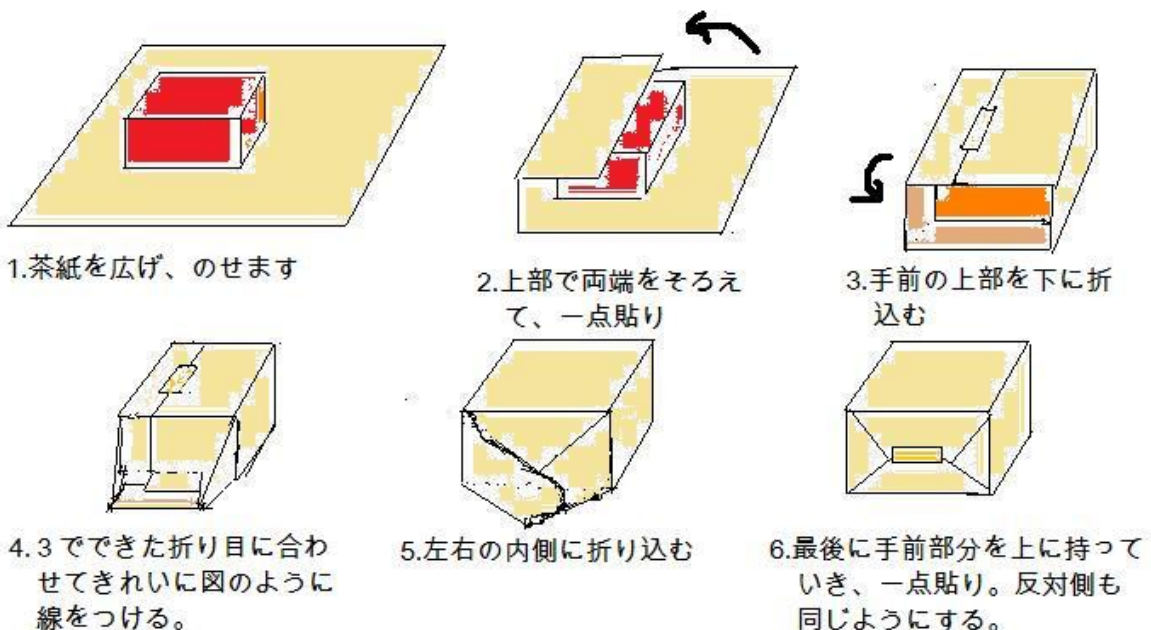
ガムテープを切るときには、アルミ製のテープに巻きつける（テープ自体にはめる）刃をつけて使う。（※前号の挿絵参照）たくさんガムテープを買ったとタダでついてきたりもするが、普段は有料だ。一度に50箱とか短い距離をガムテープで貼るときは、あらかじめその距離を目測で何枚も切り、作業をしている体に貼っておくと、何度も貼る対象物とガムテープをもちかえる時間が減り、作業がはやくなるというテクニックもある。

このように単にガムテープを貼るという作業だけでも、かなりの方法と難しさが付きまとう。以上のような点を踏まえて、その作業を職員がするのか、利用者がするのかを検討する。一番の外箱のガムテープがきれいに貼ってあることは、大事なファースト・インプレッションであり、当然きれいな方がいい。なので、ガムテープを貼る

というのは利用者の誰もができる作業ではない。そんななかで、利用者のなかでも上手な人は、「キャラメル包み」も任されている。「キャラメル包み」は、箱の組み立てをしたときに運搬時に汚れない、傷がつかないように茶紙で包む時によく使う包み方で、それはキャラメルが包まれている包まれ方と似ているところからのネーミングだと思われる。

■ガムテープ底値情報をキャッチ！

そんなガムテープもどこで仕入れるかは、ガムテープが施設持ちの場合はかなり試行錯誤する。よくあるホームセンター（特にそのホームセンターのオリジナル商品）、包装用品専門店、文房具店などが主な購入先で、単純に安いとよいかといわれるとそういうわけではない。前述のように、裂けやすかったり、薄すぎて貼りにくかったり、粘着力が少なかったりなどが、あるので要注意である。よく、この業界の人は業者の方も福祉施設の職員も、「あそこが安かった



でえ」と情報交換をしていたりする。私が住む地域では、市場の近くに複数包装用品専門店がある。ガムテープ、ビニール袋など、作業に用いる多くの副資材がここで調達する。大きさ、厚み、材質などの違いによる多くの品ぞろえの中から、的確なものを選ぶ。そんな店の情報も、知的障害者の労働にまつわる現場のスタッフには重要になってくる。

「ガムテープ代などは、そちらで仕入れていただいて、コスト押さえて、利益を上げることができるし、そちらの力の見せ所ですよ」と業者の方に言われることもある。ただ、こちらで仕入れるとなると、自分たちで買いに行き、出金伝票を書いて、どれを使うか決めて、とすることが多くなることも当然ながら含めて判断しなければならない。利用者が来ている時間に職員が施設外に出るということは、利用者への職員の目も減るし、利用者とも接する時間が減る。かといって、利用者とともに、車で買い物にいつていると、もし事故にあったとしたら、なぜその利用者の方と一緒にいき、なぜこの方の危険にあうリスクだけ増やしていたのかと問題にもなりかねない。本人の判断、家族の判断が…となるが、ガムテープなど買いにいくたびに、了解を得るというのも非現実的であるし、40名以上いる施設の利用者のうち少数しか車に乗れないのに、なぜ、うちばかり行くのか？なぜうちは選ばれていないのか？となると、これまた更に難しい判断が求められる。

■利潤動機ではない、福祉職の動機づけ

「福祉の人は、職員の給料が実績で伸び

たりしないし、やりにくいわ」と言われたりもする。実績というのものがわかりにくいのが福祉であったりする。成果主義的な人事考課を日常的に行っているところも少数だ。そして、ステップアップ、出世という動機もなかなかつくりにくいように思う。職員の肩書もヒラの次に、園長という2段階のところも多い。職員数が少ないので、あっても主任ぐらいである。このごろはそれとともに、非常勤や、契約の職員がいるということが福祉職の職員構成だ。一般企業と同じような雇用形態の構成が人を対象とする職場で起きている。人に対し、「このような援助をすべき」論はいくらでもあったが、そんなことよりも、そこで働く人自身の労働条件、労働環境が援助を受けたいぐらいという状況もある。非常勤→契約→常勤→主任という仕事の集中と、特に常勤スタッフ以外の働く動機形成の難しさは、福祉現場でも同じである。

福祉職を選んだ人は、基本的に「利用者のために何かできるなら…」というのが、第1優先の価値観であることが多い。たくさんのお金が欲しければ、この業界には踏み入れない。仕事一つ一つも、利用者にとって意味があるかどうか？で判断するので、他の業界とは違う行動の動機があるのは事実だろう。先ほどの職員組織での役職のなさも、このごろのビジネスのところでは、社長がいないという会社も時折取り上げられているので、単純な批判はできないだろう。ただ、自分が頑張ればみんなの給料が上がるということが福祉現場ではないので、やっぱり異なるのだろう。マイケル・ムーア監督の最新作、映画「キャピタリズム」（資本主義）では「国民は利潤動機が第1で動く」ということを取り上げた場

面が何度も描かれている。知的障害者の労働現場は、そのキャピタリズムのもとで、相反するともいえる価値観を持つ象徴的な現場である。

利潤動機で動く「一般」とそうではない「福祉」。それがやっぱりのみこめないと感じて、援助と作業を並行してすることはできない！とって辞める新人もいた。企業の人から「福祉職はやる気がない」と過剰に思われてしまう場面にもあった。その背景には、その独特の取り巻く状況が福祉領域における就労現場にはあることが大前提となる。それを包含しながら、施設という場は日々を重ねていく。その日々にかかる出来事は異なった価値観が共存した結果という、「複雑な日常」といってもいいだろう。
(全ての画:ちばあきお)

■ガムテープには、ガムテープを■

作業をしていると、作業のやり直しはつきもの。段ボールにマジックで字を書いたものを修正したいときは修正テープがわりにガムテープを貼ります。茶色の修正テープはありません。(チバ調べ)表がつるつるではないタイプなら、字も書けます。

あと、よくあるのは、はがした跡がなかなか取れない、はがす時にきれいにはがしたいという時。基本、ドライヤーなどで温めて、粘着部分を柔らかくして取ります。他に、貼った面が丈夫な場合は、ガムテープの粘着跡に、ガムテープ短く切って、粘着面を粘着跡に何度も、貼ってはがしを繰り返して、ペタペタとしていると粘着面が粘着跡を取ってくれます。「目には目を」ハンムラビ法典的テクです。はがし液、油系でもはがせますが、汚れるので作業ではあまり使いません。